

# 岩手教区報

いよいよ教祖百四十年祭に向けて、三年千日の年祭活動がスタートしました。私が教祖の年祭を意識して活動するのは4回目になります。

天理大学在学中、教祖百十年祭に向かう三年千日活動に、真柱様より諭達をご發布いただきました。当時は天理教学生会の一員として、お道につながる全国の学生と、教祖年祭とは何ぞや、諭達の意味、諭達に込められた真柱様の思いとは等々真剣に議論を重ね、年祭に向けて、真っ直ぐ突き進んでいたように思います。教祖ご在世当時に活躍された先生方や、現身をお隠しになられた後、枯野に火を放つがごとく、全国各地へお道の教えを広められた先生方は、20代から30代の若者が多く、中には10代の方もおられました。ただひたすらに親神様の御教えを信じ、ひながたの道を愚直なまでに邁進された姿が、多くの方々のたすかりと各地の教会設立につながったのではないかと思います。

古今東西、古代エジプトのピラミッドにも「最近の若者は：」との落書きがあるよう、若者に対する見方はネガティブなものが多いように思います。おさしづに「若い者寄り来る処厄介、世界から見れば厄介。(略)」(明治26年6月19日)とご明示いただいている

よう、若年層の扱いに手を焼くことは、いつの時代も同じことなのです。

また、「育てば育つ、育ては誠、誠は修理、修理は肥やし。これよう聞いて置け。」（明治23年6月24日）ともお教えいただき、前真柱様からは、ことあるごとに「育てる」とは育つこと」とお言葉をいただいてきました。

若年層の育成には時間がかかります。それには正解もなく、一度うまくいったことでも、次は通用しないことがあります。けれども若年層に関われば関わるほど、お引き寄せいたぐく種を確実に蒔くことがで、20年30年経つた時には各家庭にとつても、教会にとつても、なくてはならない大切な人をお与え頂くことになるのだと思います。

年祭に向かう三年千日の活動が始まつて、先ずおぢばで開催される式典は「春の学生おぢばがえり」であります。婦人会総会、青年会総会に先立つて開催される学生層の集いに心を向けて、一人でも多くの学生に声掛け（肥かけ）をし、年祭活動を盛り上げて行きました。

# 学生層育成に心を向けよう



第363号  
立教186年3月1日  
天理教岩手教務支庁  
盛岡市馬場町3-40  
TEL 019-622-7962  
FAX 019-623-9597



令和5年(2023年)3月1日 岩手教区報

私は遠野市にあつた製材所の長女として生まれ、昭和33年、釜石で漁師をしていた主人と結婚し、釜石市尾崎町に住むことになりました。長男が小学4年生、次男が小学2年生の時、主人の体に異変が見られました。主人の兄弟が後に設立される浜洋分教会の上級である釜石港分教会の信者でしたので、私はそこでこの教えを初めて知る事となつたのです。その頃の私は漁師の妻として浜の仕事を手伝い、重い荷物を運んだり動き回つたりの毎日で、早産と流産を繰り返し、子供の産めない体になつていきました。

おぢばに初めて帰った翌年の昭和46年不思議と三男を授けて頂き、喜びに胸を躍らせていた矢先、また大きな節が訪れます。姑は「舌癌」を、主人は筋肉が衰えていく病気「筋萎縮性側索硬化症」を発症したのです。親神様に縋る思いで、昭和48年、一番下の2歳の子供を連れて修養科を志願しました。続いて主人も修養

昭和51年には、姑は舌癌が悪化して出た。科を修了し、教会に住み込むことに。病状が進み歩くことも困難になる中、会長さんが上級教会まで一緒に歩いて参拝して下さり、その帰りに、にをいがけをされるのを、主人も必死について廻りました。

親神様は決して乗り越えられないふしはお与えになりません。私の通つた後の道に、子供や孫が幸せになる道があるのなら、苦労ではありません。歩んだ道が後々の者の話の台となるよう、これから的人生を歩んでいきたいと思います。

久保京子（三陸支部・浜洋分）

私は遠野市にあつた製材所の長女として生まれ、昭和33年、釜石で漁師をしていた主人と結婚し、釜石市尾崎町に住むことになりました。長男が小学4年生、次男が小学2年生の時、主人の体に異変が見られました。主人の兄弟が後に設立される浜洋分教会の上級である釜石港分教会の信者でしたので、私はそこでこの教えを初めて知る事となつたのです。その頃の私は漁師の妻として浜の仕事を手伝い、重い荷物を運んだり動き回つたりの毎日で、早産と流産を繰り返し、子供の産めない体になつていきました。

おぢばに初めて帰つた翌年の昭和46年、不思議と三男を授けて頂き、喜びに胸を躍させていた矢先、また大きな節が訪れます。姑は「舌癌」を、主人は筋肉が衰えていく病気「筋萎縮性側索硬化症」を発症したのです。親神様に縋る思いで、昭和48年、一番下の2歳の子供を連れて修養科を志願しました。続いて主人も修養

直し、その翌年に主人も病状が進んで入院し、日に日に体が動かなくなり声も出ず、目と目の会話となりました。8か月後、出直した主人の体から次々と医療機器が外されていく中、会長さんがまだ温かい主人におさづけを取り次いで下さいました。すると主人の目が開き、居合わせている一人ひとりにお礼するかの如く目を向けると、再び目を閉じ、親神様の懷に抱かれていつたのです。私の信仰信念が心に深く刻まれた瞬間でした。

平成23年の東日本大震災では、ほとんどの財産が津波に流されてしましましたが、家族全員の命をたすけて頂きました。高台にある小学校の体育館で避難生活を送つていた中、私は疲労と衰弱で倒れてしまい、次男が自分の家の近くに借家を見つけてくれ、そこで生活することになりました。現在は有難いことに自宅を購入し、長男家族、三男家族と一緒に暮らしています。辛いことが重なりましたが、嬉しいものもあつたのです。

| 行事予定       |          | 【3月分】           |
|------------|----------|-----------------|
| 献血推進研修会    | (10時30分) | 鈴木トシ〔96歳〕       |
| 役員会        | (11時30分) | 盛岡支部・三ノ盛布教所長    |
| 学生担当委員会例会  | (19時30分) | 令和5年1月26日出直された。 |
| 青年会ひのきしんデー | (10時)    |                 |
| 女子青年例会     | (10時)    |                 |
| 春の学生おぢばがえり | (～29日)   |                 |
| 少年会例会      | (12時)    |                 |
| 婦人会例会      | (10時30分) |                 |

